

貯 法：室温保存
有効期間：3年

高リン血症治療剤
日本薬局方 沈降炭酸カルシウム錠

カルタン[®]錠250
カルタン[®]錠500
Caltan[®] Tablets

日本薬局方 沈降炭酸カルシウム細粒

カルタン[®]細粒83%
Caltan[®] Fine Granules

	錠250	錠500	細粒83%
承認番号	21400AMZ00593	21100AMZ00516	21400AMZ00594
販売開始	2002年12月	1999年8月	2002年12月

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

- 2.1 甲状腺機能低下症の患者〔カルシウムの利用が亢進し、症状を増悪するおそれがある。〕
- 2.2 炭酸カルシウムに対し過敏症の既往歴のある患者

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	カルタン錠250	カルタン錠500	カルタン細粒83%
有効成分	1錠中 日局 沈降炭酸カルシウム 250mg	1錠中 日局 沈降炭酸カルシウム 500mg	1g中 日局 沈降炭酸カルシウム 833mg
添加剤	乳糖水和物、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム		乳糖水和物、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、含水二酸化ケイ素

3.2 製剤の性状

販売名	外形			識別コード	色調等
	上面	下面	側面		
カルタン錠250				M506	白色素錠
	直径 8.0mm	厚さ 3.9mm	重量 300mg		
カルタン錠500				M505	白色素錠
	直径 10.0mm	厚さ 5.4mm	重量 600mg		
カルタン細粒83%	－			M560（分包シートに表示）	白色の細粒

4. 効能又は効果

下記患者における高リン血症の改善
保存期及び透析中の慢性腎不全患者

5. 効能又は効果に関連する注意

本剤は血中リンの排泄を促進する薬剤ではないので、食事療法等によるリン摂取制限を考慮すること。

6. 用法及び用量

通常、成人には、沈降炭酸カルシウムとして1日3.0gを3回に分けて、食直後、経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

7. 用法及び用量に関連する注意

2週間で効果が認められない場合には、本剤の投与を中止し、リン摂取の制限等、他の適切な治療法に切り替えること。

8. 重要な基本的注意

8.1 血中カルシウム濃度の上昇を来すことがあるので、本剤の投与にあたっては、定期的に血中リン及びカルシウム濃度を測定しながら慎重に投与すること。〔9.1.4、11.2参照〕

8.2 血中マグネシウム濃度が上昇するおそれがあるので、本剤の投与が長期にわたる場合には、患者の状態を観察しながら必要に応じ、血中マグネシウム濃度を測定すること。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.1 合併症・既往歴等のある患者

9.1.1 薬物過敏症の既往歴のある患者

9.1.2 心機能障害、肺機能障害のある患者

血中カルシウム濃度の上昇により、心・肺機能をさらに抑制し、症状を増悪させることがある。

9.1.3 便秘のある患者

カルシウム及びリンの排泄が阻害され血中リン、カルシウム濃度が上昇するおそれがある。

9.1.4 高カルシウム血症（血中カルシウム濃度として11mg/dL以上）の患者

血中カルシウム濃度がさらに上昇し、副作用があらわれやすくなる。〔8.1、11.2参照〕

9.1.5 無酸症の患者

本剤中の沈降炭酸カルシウムの溶解性が低下し、リンとの結合能が低下するため、効果が期待できない場合がある。

9.8 高齢者

減量するなど慎重に投与すること。一般に生理機能が低下していることが多い。

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 テトラサイクリン塩酸塩 ミノサイクリン塩酸塩等 ニューキノロン系抗菌剤 ノフロキサシン オフロキサシン レボフロキサシン等	本剤のキレート作用により、相互に吸収が低下し、効果が減弱することがある。併用する場合には本剤服用後2時間以上間隔をあけるなど注意すること。	これらの薬剤は、カルシウムと難溶性の塩を生成し、抗生物質の腸管吸収を妨げる。
ポリスチレンスルホン酸ナトリウム ポリスチレンスルホン酸カルシウム	これらの薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、慎重に投与すること。	本剤は、無機質の微細な粉末を錠剤、細粒としたもので、種々の物質と結合する性質があり、また、二価の金属イオンとしてのキレート作用もある。同時に服用した他の併用薬剤の吸収を阻害することがある。さらに、本剤は、アルカリ性であるため、消化管内のpHを上昇させ、あるいは体内に吸収後に体液のpHを上昇させることが考えられる。
キニジン硫酸塩水和物	これらの薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、慎重に投与すること。	本剤は、アルカリ性であるため、消化管内のpHを上昇させ、あるいは体内に吸収後に体液のpHを上昇させることが考えられる。
大量の牛乳	milk-alkali syndrome（高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等）があらわれることがある。観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には投与を中止すること。	機序は不明である。
活性型ビタミンD剤 アルファカルシドール カルシトリオール等	高カルシウム血症があらわれやすくなるので、異常が認められた場合には、これらの薬剤又は本剤を減量あるいは投与を中止すること。	活性型ビタミンD剤はカルシウムの吸収を促進する。

